

第36回（2019年度）若手研究者のための健康科学研究助成受贈者一覧

a. 指定課題（10件、一律100万円を助成）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属	研究テーマ
雨宮 怜	筑波大学 体育系	個人差に基づいた身体活動の心理・認知的影響 —敏感さの高い個人を対象として—
神谷 訓康	大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教室	地域在住高齢者における睡眠の質を改善するのは、運動強度か、実施頻度か、実施時間帯か
川西 範明	千葉工業大学 先進工学部	骨格筋由来の分泌エクソソームによるうつ症状の改善効果の検証
菊池 宏幸	東京医科大学 公衆衛生学分野	個人と職場レベルの身体活動が労働者のメンタルヘルスに与える影響 —マルチレベル分析を用いた大規模職域コホート研究—
佐々木裕之	早稲田大学 先進理工学研究科	体内時計を考慮した運動・腸内細菌・精神疾患の関係性の解明
芝 孝一郎	ハーバード大学 公衆衛生大学院	運動するから抑うつが減るのか、抑うつがないから運動するのか？ —スポーツ組織参加と抑うつの双方向性を考慮した公衆衛生的介入効果のシミュレーション—
千葉 一平	国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター	地域在住健常高齢者における身体活動量とうつ状態との関連 —身体活動量変化の軌跡に着目した縦断的観察研究—
土井 理美	東京医科歯科大学 国際健康推進医学分野	小学校高学年における座位行動がメンタルヘルスに与える影響 —前向きコホート研究—
原田 和弘	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科	グループ運動中の交流の量と質が高齢者のメンタルヘルス向上に及ぼす影響
渡邊 良太	千葉大学大学院 医学薬学府	地域のスポーツグループ参加割合と高齢者の抑うつリスク —縦断マルチレベル研究—

b. 一般課題（10件、一律50万円を助成）

氏名	所属	研究テーマ
江島 啓介	インディアナ大学 公衆衛生学部	自己申告データに基づく食事摂取量のバイアスとバイアス除去手法の定量的評価
岡村 拓郎	京都府立医科大学大学院 医学研究科	サルコペニア肥満の発症メカニズムの解明 —統合リピドミクス及びゲノミクス解析による検討—
金子 直嗣	東京大学大学院 総合文化研究科	歩行の運動イメージと機能的電気刺激の併用による脳活動の賦活と歩行機能向上の試み
木村 剛英	つくば国際大学 医療保健学部	運動学習の促進に寄与する脳活動の解明 —運動学習を促進する効果的な介入方法の創出を目指して—
楠山 譲二	ハーバード医科大学 ジョスリン糖尿病センター	子の代謝機能を改善する運動誘発性胎盤由来サイトカインの生理動態の解明と運動プログラムの立案
櫻田 武	立命館大学 理工学部	高齢者の適切な歩行動作獲得と怪我の防止を目的としたニューロフィードバックによる身体性注意能力訓練系の開発
白土 健	杏林大学 医学部	肥満による慢性炎症に対する運動の効果とメカニズム —マクロファージのインスリン感受性に着目して—
榛葉 有希	静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府	動脈硬化を予防するマイオカイン探索と、バリン投与と運動の併用による動脈硬化予防効果の増強
朴 鍾赫	日本医科大学 薬理学分野	運動と連動するホルモン「irisin」が不活動による認知機能の低下を回復させるか否か
森 裕幸	弘前大学大学院医学研究科 子どものこころの発達研究センター	小中学生におけるソーシャル・キャピタルとQOLおよび抑うつとの関連

< 選考委員奨励枠 >（2件、一律30万円を助成）※受贈課題以外から選考委員推薦による特別枠

氏名	所属	研究テーマ
城所 哲宏	国際基督教大学 教養学部	日本およびケニアに在住する子どもの身体活動を規定する近隣居住環境要因の解明
Liu Liling	筑波大学 システム情報工学研究科	健康まちづくりを目指す道路空間の総合的利用と交通システムの構築

（所属は応募時のものを記載）